

環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同
長寿・低炭素化分科会（第24期・第1回）議事録

日時：平成30年3月23日（金）10：00～12：00

会場：日本学術会議 6階6-C（1）会議室

出席者（敬称略、以下同様）：田辺、伊香賀、加藤、嘉門、都築、中上、羽山、
福井、持田、吉野、渡邊 以上11名（委員12名中11名出席）

事務局：石尾、以上1名

欠席者：下田、以上1名

議題

1. 委員の紹介

- ・ 各委員の自己紹介を行った。

2. 委員長の選出

- ・ 田辺委員が委員長に選出された。（以後、委員長が司会）

3. 副委員長、幹事選出

- ・ 田辺委員長より、副委員長には伊香賀委員、幹事には下田委員と渡邊委員が指名され、各委員が同意した。

4. 土木工学・建築学委員会について

- ・ 田辺委員長より、現在の土木工学・建築学委員会について説明があった。

5. 分科会の活動方針

- ・ 田辺委員長より、活動方針について意見が示された。
- ・ これまでの日本全体を広範囲にカバーする提言を踏まえて、今後必要とされる建築や街づくりの在り方も変わってくるので、そのあたりに絞って議論を進めたい。
- ・ 2025年～35年（そこから10～15年間位）に75歳～の、支える必要がある人口が増えて日本全体の人口も減る。日本が厳しい状況を迎える。
- ・ 働き方、働く場所も変わってくるだろう。そのあたりをターゲットに進めていきたい。
- ・ 行政の資料では暮らしや働き方などについてはまだ検討されていない。

6. 前期提言の紹介

- ・ 吉野委員より前期提言の内容やその経緯などについて説明があった。これまでの提言のなかには、政策に反映されたものもあった。
- ・ 提言には具体的にどの省庁に関連するかについても表記されている。（資料4-1、4-2参照）
- ・ その後の討議で提言をどのように活用していくのか、が課題である、との意見が出た。

- ・ 提言は広範囲の内容が取り上げられており、ほとんどの内容がカバーされている。
- ・ 日本はスペースが限られている現状で、健康や長寿社会にどのように結びついていくのか。
- ・ 人口動態の変化と合わせて、具体的にどのような長寿社会生活になるのか。未来（将来）予想も踏まえて、具体的な議論を進めたらどうか。
- ・ 今までは、欧米がモデルであってそれをキャッチアップしてきたが、これからはモデルがないので、自らモデルをつくっていく必要がある。
- ・ 高齢化・長寿命化の未来社会を支えるためにはどのような住まい方、建築・都市であるべきか、それを実現するための手立てなど具体的に示せるといい。

7. 第 24 期の分科会の活動について

- ・ 田辺委員長より資料 5、6、7 について紹介があった。
- ・ SDG s モデルには住まい方や生活、住環境についての記述が見当たらない。
- ・ タワーマンションなどの過剰供給や空き家率上昇、一人暮らしの実態など具体的な現状、統計データなどを参考にあるべき姿の議論を進めたい。
- ・ 資料 7 に示されているように、変わりつつある価値感、社会背景を踏まえながら本分科会でも議論を深めていきたい。
- ・ 行政ができないことを例えば「みんなの幸せ」について社会に発信していくことが日本学術会議の役目なのか？行政への働きかけだけでなく、一般社会に発信し、あるべき姿に先導していくことも日本学術会議の役目なのではないか？などの意見が出された。

8. 分科会のスケジュールについて

- ・ 次回の会合予定は、2018 年 5 月 22 日（火）10：00～12：00
話題提供者は、伊香賀委員、羽山委員を予定。
- ・ 次々回の会合予定は、2018 年 8 月 7 日（火）13：30～15：30
話題提供者は、中上委員、都築委員を予定。
- ・ その後 2018 年 11 月、2019 年 2 月を予定。

以上